



フィリピンミンダナオ島、避難所の子供たちとAMDAM医療チーム(AMDA提供)

～おもいやり 地球市民の パスポート～

特集

SPECIAL EDITION

AMDAM  
アムダ

岡山市に本部を置くAMDAMとおかやまコープが2007年10月に協定を結んで、5周年。東日本大震災ではおかやまコープと協力して緊急支援を行いました。息の長い支援のためにAMDAMを知り、私たちにもできる国際協力を広げていきましょう。あなたの小さな一歩は世界へつながっています。



菅波 茂 代表

国際医療支援ボランティア団体AMDAMの菅波代表にお話を伺いました。岡山から全国へ、世界各地へ「支援」が届けられています。

「5年間で、心に残っていることは？」

東日本大震災です。この時は、おかやまコープの底力をみました。生協の強みは、全国的な組織力を持っていてのこと。そして、主婦の目線で生活に必要な物資を送ったことです。スタッフ用の食料1000食も提供してくれました。ありがたかったです。



「AMDAM健康サポートセンター」開設のきっかけは？

地震翌日、仙台の若葉地区に入りまして。9月15日に福島第一原発の事故がおきたため、若い人を帰らせて、残りの人は北へ行きました。同行者に釜石市出身の医師と、大槌町出身のナースが加わりました。釜石市から大槌町に入り、弓道場で診察をしました。地元大槌町出身のナースがいたことで、信頼関係を築くことができました。よそのものは、なかなか

入っていけません。やはり、これも「縁」でしょうか。それが、開設につながりました。

「大切にされていることは？」

エネルギーが湧き上がる喜びを共に作っていくことが心の癒しになります。緊急支援は悲しみの共有、復興支援は喜びの共有です。昨年、被災地中学のサッカー部員を岡山に招待して試合をしたり、大槌高校の吹奏楽部とコンサートを開いたりしましたよね。同世代交流や被災地間交流のように、人が集う機会を作ることが必要です。援助を受ける側にも「フレンド」がある。支援のやり方も違います。必要な時に「こちらこそ」ありがたうと言えること、人に喜んでいただくことを喜びとすること。次の活動につながる活動、明日の財産になるような活動が必要です。



サッカー交流 (2011年8月4日)

「緊急支援が印象的ですが、普段は何を？」

ネットワークの強化をしています。災害に備えて、人、お金などをうまく動かせるように準備しています。時代は常に変わっているので、何をしたらいいかという、コンセプト作りが大事です。託されたお金を有意義に使わないといけません。

「これからについて。」

被災地復興には10年ばかりかかります。被災した人にとって、一番怖いのは「見放されること」です。あなたたちを見放さない、喜びのメッセージを発し続ける活動をしたいです。

「ありがとうございます。先生が大事にしている、いつも使っている言葉です。これからもAMDAMの活動に期待します。」



絆コンサート (2012年3月19日)

救える命があればどこへでも

AMDAMは海外で大災害が起ると、すぐに緊急医療支援を開始します。

1984年、岡山市に設立。紛争難民や災害被災者に対して保健・医療を中心とした緊急支援、復興支援を続けています。世界30ヶ国に支部を持ち、そのネットワークで多国籍医師団を結成し、「困ったときはお互い様」という相互扶助の精神に基づいて国際人道支援活動を実施しています。

AMDAM人道支援3原則

- 1 誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある
- 2 この気持ちの前には、国境、民族、宗教、文化等の壁はない
- 3 支援を受ける側にもフレンドがある

手を取り合って5周年

おかやまコープとAMDAMは、岡山発国際貢献の推進を目指して、協定書を締結し、お互いの協働を確認しています。

- 1 AMDAMとおかやまコープの3つの共通点
- 2 ① 喜んでいただくことを最大の喜びにしていること
- ② 困ったときはお互い様という気持ちがあること
- ③ 岡山発の国際貢献活動であること



協定書

来年3月に5周年記念行事を予定しています。

なでして便り

昨年4月に募集した「がんばろう!東北ハートフルメッセージ」は、1300枚を超え、なでしこの種を添えて、被災地に送られました。AMDAMを通して届けられた大槌町では「なでしこの日」まで設けて大事に育ててくださっています。



AMDAM大槌クラブの皆さんから



なでしこ満開のAMDAM健康サポートセンター(2012年6月末)

東日本大震災

被災された方の心身のケアを行う「AMDAM健康サポートセンター」を、大槌町に開設し、おかやまコープからは、看板や掛け時計、ビデオメッセージを贈りました。なでしこは、大槌町とおかやまコープをつなぐ「絆」の役割を果たしてくれています。

私たちの募金が使われています

- 2007年 新潟県中越沖地震 .....50万円  
ペルー沖地震 など .....130万円
- 2008年  中国四川地震 など .....300万円  
(AMDAM提供)
- 2009年  インドネシア・スマトラ沖地震 など .....400万円  
(AMDAM提供)
- 2010年 ハイチ地震 など .....300万円  
ザンビアプロジェクト .....100万円
- 2011年  フィリピンミンダナオ島洪水 など .....250万円  
東日本大震災 .....126万円  
緊急支援物資 など
- 2012年 AMDAM健康サポート .....51万円  
センター など  
ハングラディッシュ洪水 .....50万円

10月はAMDAM募金月間

- 毎年10月はAMDAM募金月間です。2011年は、4,201,125円の募金が集まりました。寄せられた募金は、「おかやまコープAMDAM基金」とし、緊急支援活動などに使われます。
- AMDAMが緊急支援活動を行う場合、スタッフが現地へ移動する費用や医薬品などを調達する費用として使われます。
- 宅配、店舗での募金活動に、ご協力よろしくお願ひします。

募金しましょう!!

期間:10月1日~10月31日



店舗では年間を通して受付けています。

募金箱 (写真は昨年のもので)

OCR注文書やふれんずでも受け付けます。

今週、宅配チラシと一緒に募金袋をお届けいたします。